

大津市立幼稚園再編等検討委員会の 進捗報告について

令和7年11月11日（火）

第2回 大津市社会福祉審議会児童福祉専門分科会

1 大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【計画策定の必要性】

- ・本市においては、令和3年3月に再編基準を見直し、「令和3年度に入園する園児が卒園するまでは原則再編を行わない」としてから3年が経過したことから、令和6年度から改めて検討をスタートしました。
- ・令和6年度の時点で、再編基準に該当し、再編の検討を進めることとなった園が複数生じていました。
- ・そのため、令和7年度に「大津市立幼稚園再編等検討委員会」を設置し、大津市立幼稚園再編等計画の策定を行うこととなりました。

【趣 旨】

- ・就学前児童数の減少や共働き家庭の増加等による保育所志向の高まりを受け、市立幼稚園では園児数が減少しており、子どもにとって望ましい教育・保育環境を提供することが難しい施設が生じている状況です。
- ・園児が減少して集団規模が小さくなると、いろいろな友達と思いを伝え合う経験や協同する経験の不足、遊びの種類が限定されるなどの課題があります。
- ・幼児期の生活にふさわしい教育環境の保障が求められているといったことから、市立幼稚園の今後の方向性について集中的に審議された結果を踏まえ、全ての市立幼稚園の再編計画を定めることとします。

1 大津市立幼稚園再編等検討委員会について

委員構成について

大津市立幼稚園再編等検討委員会の委員は次の10名で構成されます（敬称略）。

名 前	所 属 等	委員区分
山 縣 文 治	大阪総合保育大学	学 識 経 験 者
中 井 清 津 子	びわこ学院大学	学 識 経 験 者
大 橋 壮 嗣	大津市私立幼稚園	教 育 関 係 団 体
小 森 美 恵 子	大津市PTA連合会	教 育 関 係 団 体
狩 野 聡	大津市保育協議会	保 育 関 係 団 体
佐 竹 扶 佐	大津市民生委員児童委員協議会連合会	地 域 活 動 団 体
中 森 藤 雄	大津市自治連合会	市 民 団 体
井 上 真 矢 子	大津市校園長会（幼稚園）	市 職 員
藤 井 都	大津市校園長会（小学校）	市 職 員
早 藤 可 奈 子	公募委員	市 民

2 これまでの開催状況について

大津市立幼稚園再編等検討委員会 開催状況

現時点で、次のとおり、4回の検討委員会を開催し、本市の現状やこれまでの取り組み、計画骨子案の内容について、委員間で審議をいただきました。

次の開催予定は、12月25日（木）の13時30分からとなっています。

	日時	内容
第1回	令和7年 5月23日（金）9時30分～11時40分	諮問 大津市立幼稚園再編等計画の策定について 本市の現状やこれまでの取り組み、再編等計画の構成（案）など
第2回	令和7年 7月11日（金）10時00分～11時20分	適正規模、再編基準、地域の考え方などについて意見交換
第3回	令和7年 9月26日（金）10時00分から12時00分	計画骨子（案）の内容について 総則、基本方針（幼稚園教育の在り方について、基本的な方針について、適正規模について、再編基準について）
第4回	令和7年10月27日（月）14時30分～17時00分	第3回の続き 基本方針（再編基準について、再編等の検討フロー）、基本計画、実行計画
第5回（予定）	令和7年12月25日（木）13時30分～16時00分	計画素案の内容について

第1回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【開催日時・場所】

5月23日(金)9時30分から11時40分 於)新館7階特別会議室

【委員会の内容】

当日の内容は次のとおりです。

- (1) 資料1「市立幼稚園再編等計画策定について」に基づき説明
(本市の現状やこれまでの取り組み、再編等計画の構成(案)など)
- (2) 委員間の意見交換
(市立幼稚園の役割や保護者ニーズ、地域との関わりなどについて)
- (3) 次回の委員会に向けて

【議事要旨】

主な意見等は次のとおりです。

- (1)市立幼稚園が、これまで担ってきた役割や必要性
 - ・1小学校区1幼稚園の中で、地域連携の中心的役割を果たしている。
 - ・小学校との連携において、拠点の役割を果たしており、民間園のモデルとなっている。
 - ・幼稚園での計画的な学びが、小学校での学習に繋がっている。
- (2)現在、市立幼稚園が置かれている環境
 - ・重要な役割を担っている一方、市立幼稚園の利用者が一番減っている。
 - ・保護者ニーズは、教育内容より給食や預かりなどの負担軽減を重視するように変化している。
 - ・全国的には、幼稚園の将来の選択肢が、閉園又は認定こども園化になってきている。
- (3)再編等の検討について
 - ・大津市として、認定こども園化は視野にあるのか。
 - ・幼稚園を取り巻く環境が変化していることから、何か手を打たなければならない。

第2回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【開催日時・場所】

7月11日(金)10時00分から11時20分 於)本館4階 第4委員会室

【委員会の内容】

当日の内容は次のとおりです。

- (1) 資料1「大津市立幼稚園再編等計画の策定について」に基づき説明
- (2) 委員間の意見交換
- (3) 次回の委員会に向けて

【議事要旨】

主な意見等は次のとおりです。

- (1) 適正規模、再編基準について
 - ・1学級36人以上で2クラスに分けるという国の基準から鑑みて、その半分の18人を再編基準とする大津市の現基準は適正であると思う。
 - ・人数の最低基準は国も示していない。
 - ・3人程度のグループが3～4つあるということが大切だと思う。
 - ・複式学級も一つの選択肢として検討する必要がある。
- (2) 地域の考え方について
 - ・本市における今の幼小中や地域の繋がりを考えると、中学校区ぐらいの方が良いと感じる。
 - ・中学校区で考えると、通園手段の確保と併せて議論しなければならない。
- (3) その他
 - ・小学校との接続という意味では、市立幼稚園だけでなく、全ての子どもが繋がっていると意識する必要がある。
 - ・園児数の急速な減少を見通して、条件等をしっかり総論的に考えないと統合を繰り返すことになりかねない。地域で統合には反対も出ると思うが、例えば、送迎問題に対する工夫などと併せて、協力をお願いすることが大事である。
 - ・幼児教育の質や目指すところをしっかりと検討していく必要がある。

第3回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【開催日時・場所】

9月26日(金)10時00分から12時00分 於)本館4階 第4委員会室

【委員会の内容】

当日の内容は次のとおりです。

- (1) 資料1「大津市立幼稚園再編等計画の策定について」に基づき説明
- (2) 委員間の意見交換
- (3) 次回の委員会に向けて

【議事要旨】

主な意見等は次のとおりです。

- (1) 第2回検討委員会の振り返りについて
 - ・給食の実施について、各園ごとの取組など、全体状況の把握を行ってほしい。
- (2) 第1章 総則について
 - ・保護者ニーズの変化を示すアンケート結果について、表現の方法を見直してほしい。
- (3) 第2章 基本方針(幼稚園教育の在り方について)
 - ・架け橋期の教育について、民間も含めた形で、幼稚園教育の在り方の中に改めて位置付けるべきである。
 - ・公民関係なく、大津市の全ての子どもを意識する必要がある。

第3回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【議事要旨】

(4)第2章 基本方針(基本的な方針について)

- ・未来の社会や子どもの教育環境をより良くする、より魅力的な再編等の考え方が大切であり、その要素を入れる必要がある。
- ・再編の議論をすると、特定の小学校区から幼稚園がなくなっていく話になりやすいが、その場合、1号認定の受け皿がないと納得を得にくい。
- ・保護者の立場では、再編されても給食が実施されるなどのメリットがあれば抵抗がないと思う。
- ・大津市が培ってきた幼稚園教育をどう残していくのか、目標を考えた上で議論する必要がある。
- ・経済的な観点から再編は必要と思うが、保護者の声を聴くことは大事な視点であると感じる。
- ・給食の提供は、人材確保や費用の保護者負担などの課題があり簡単なことではない。
- ・大津市内の私立幼稚園でも認定こども園化されているところはあるが、給食は、単なる食事提供や栄養提供ではなく、食育という観点が大切である。

(5)第2章 基本方針(適正規模について)

- ・人口状況を考えると、どのような基準を設けようと、幼稚園は長期的には維持できない可能性が高く、私立の場合は、認定こども園化という形で乗り越えようとしている。
- ・子どもの育ちのことを考えると、複数のグループを構成できる必要があると思う。
- ・4、5歳で園児数にほとんど差がないのであれば、5歳で25人という人数は見直しても良いのではないかな。
- ・再編基準と混同しがちであるので、適正規模を以て再編等を検討しない、ということを明記した方が良い。

(6)第2章 基本方針(再編基準について)

- ・大津市立幼稚園の3歳児は、20人を超えると職員を1名追加で配置していることを考えると、18人で再編を検討するという基準は厳しいと感じる。
- ・人数の基準は、現状維持で良いと思う。
- ・3歳児を基準としたとき、人数の基準は現状よりも少なくしたほうが良いと思う。

第4回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【開催日時・場所】

10月27日(月)14時30分から17時00分 於)新館2階 災害対策本部室

【委員会の内容】

当日の内容は次のとおりです。

資料1「大津市立幼稚園再編等計画の策定について」に基づき説明、委員間において審議を実施

【議事要旨】

(1) 第4回検討委員会における決定事項は次の4点です。

- ア 再編基準は、3歳児を基準として、人数は15人とする。ただし地域性を考慮する。
- イ 園児数は推計値を用いて検討し、第1段階、第2段階に分ける。
- ウ 再編を検討するフローは、事務局の提案のとおりとする。
- エ 再編を検討するエリアは、中学校区を基本とする。

(2) 主な意見等は次のとおりです。

- ア 第2章 基本方針(再編基準について)
 - ・人数の考え方は、国において1クラスの上限人数を35人から30人に見直す動きがあることも念頭において検討してはどうか。
 - ・園児数が少ないから再編の対象となるのであれば、給食を実施すれば、市立幼稚園を選んでもらうことができ園児数が確保されるので、再編対象とならないのではないか。
 - ・一方で、給食については、本検討委員会での議論の対象ではないことから、別途、将来的にどうするかを検討すべきことである。
 - ・公立の役割を、どんな事情があっても全ての子どもが通うことができること、と考えたとき、人数だけの基準で再編を進めていくことに危うさを感じている。
 - ・地域性の考慮は行うが、その上で、誰が見てもわかる客観的な基準を考えてもらいたい。加えて、子どもにとって良い育ちの環境について考えていく必要がある。

第4回大津市立幼稚園再編等検討委員会について

【結果報告】

【議事要旨】

- ・3歳児で入園する場合が圧倒的に多いという事実を考えると、3歳児を基準にする方が市民に対して分かりやすいと感じる。
- ・園児数が少なくなった園を保護者が選ぶのかという視点も考慮する必要がある。
- ・再編等を行うと決めたときには、なるべく早く実行していったほうがいい。
- ・再編基準は、「3歳児を基準に15人」とするが、柔軟性を持たせること。
- ・保護者や地域へ説明する際には、幼稚園がこう変わっていく、変わらざるを得ないというストーリーを事務局側でしっかり考えること。

イ 第2章 基本方針(再編等の検討フロー)

- ・公立園同士の再編等を検討と書かれているが、必ず認定こども園になるというものではなく、あくまで選択肢の一つとして検討という形にしている。
- ・子どもの育ちの場所を確保するという観点では、私立幼稚園の数も考慮に入れたら良いと思う。

ウ 第3章 基本計画

- ・駐車場や施設の老朽化、園児の通園距離に加えて、園庭についても基準に加えてもらいたい。
- ・園庭については、広さだけではなく、子どもの遊びにとって魅力的な環境づくりが大切である。
- ・実際に再編の検討を進める際には、園同士の話し合いの中で、それぞれの良さのどこをどのように継承していくのか、両方合わせて新しいものを作っていくという考え方が大切である。
- ・再編対象になった園が、再編対象になっていない園に吸収されることはあり得る。

エ 第4章 実行計画

- ・今の利用者が不安にならないように、相談や転園先の確保などの配慮をしてほしい。
- ・募集停止をするのではなく、再編を実施する際に、全在園児が転園するほうがいいと思う。